

## “名 誉 教 授 の 御 近 況”

編集部註： 以下の名誉教授の御近況は、2月末日〆切りで、葉書回答によりおよせ頂いたものの全文です。現在、理学部には47名の名誉教授が居られ、そのうち35名の先生方から御返事を頂きました。尚、森野先生は、本号に御寄稿頂いておりますので、それを以て元気であるという近況報告にしたいということでもあります。

又、高宮先生については、学生委員として苦楽を共にされた飯田先生が思い出をおよせ下さいました。御協力頂いた諸先生に編集部として厚く御礼申しあげると共に、名誉教授

諸先生全員の今後の御健勝と、私共理学部後輩への御指導をよろしくお願いいたします。

### 坪井 誠太郎 (地質)

全く平凡に暮しております。

学士院、地学協会、無機材研に、合わせて月に数回定例的に出かける外は、かくべつの公用はありません。しかし、前日からやりかけになっている仕事があって、それを進めるのに、自分勝手に自分をいそがしくさせています。

近頃、学術の進歩がすさまじく、私の専門分野でも、新しいことが次から次と現われてくるので、「あれよ、あれよ」と喜しい悲鳴をあげています。

たいへんありがたいことは、大学の教室はじめ諸研究機関に出入りしたり、学会での学術談話会や討論会などの時折出席したりして、新風に浴する機会に恵まれていることです。これは、私にとって何よりの保健剤であり、生活を楽しくさせる要素であります。それから、レクリエーションの第一は、旅行して自然に接することです。

なお、最近私は、同学諸氏の協力を得て作成した「斜長石光学図表」(和英両文)の出版計画を進めています。

### 左右田 徳郎 (化学)

世間では60才以上を老人ということになっているようだが、60台でも、70台でも一括してしまう分類には少々抵抗を感じる。30台と50台とを比べるのは大分様子がちがうと思う。若者と老人とを区別することは男と女を区別するように明らかにできないが、ともかくそんなに難かしくはない。だが老人を分類するとなると仲々難しい。個体差が大きくて80台でも世の中で盛んに活動するものもあるし、60台でも萎びているものもある。しかし共通して言えることは、老人の生活力は次第に衰退してゆくことであろう。そしてその衰退速度が年と共に加速度的大きくなるというのが私自身の感じてである。

私の場合、60台では老眼鏡で読める本が80台の今では虫めがねを併用しなければならなくなった。だから手も疲れる。読むことが面倒になる。(広報は読みます。)耳は片耳だが以前はどうやら間に合わせることが出来たが、今は聞きまちがえなどで内容がわからなくなることも多く、ことに大勢の集合などでは著しい。それで会に出るのが嫌になってきた。

身体の方は衰退が軽く、買物の荷物持位には使われます。これが私の現況です。

以上、つまらない勝手なことを並べて、「広報」には不向なことばかりですみません。どうぞ御遠慮なく没にして下さい。

### 小倉 謙 (植物)

私は昨年八十路の坂を越え、耳や眼など大分弱りましたが、一応健康に恵まれ、定まった勤務もなく、昨今大分溜った文献などの整理や取纏めなどに努めており、時折東大にもお邪魔しております。

余技としての切手集めも続けており、時折展覧会などのお手伝いをやっております。

### 本田 正次 (植物)

朝日百科の「世界の植物」、シーボルトの「フロラ・ジャポニカ」複製本、それぞれその一部を担当して目下執筆中です。日本植物友の会、植物愛好会その他の植物団体も月一回程度に指導しています。自然保護関係、文化財関係の仕事も活発にやっています。その他関係団体が多くて困っているくらいです。月に二回程度は病院に通って健康診断も欠かしたことはありません。句会も一月までは月三回でしたが、二月からは二回となりました。二十五年の句歴ですが駄句ばかりです。

### 萩原 雄祐 (天文)

前世紀末以来出版されなかった天体力学の膨大な文献の集成を老人の仕事として一九六一年以来取り組んでいます。前の二巻はやつとのことでアメリカで出版されましたが出版所の経済不振のため、やめられて、今は文部省の補助で日本で続巻を出しています。日本で英文を組むので、校正が大変で、その上、こちらの英語の力が足りないために、苦勞しています。今その最後の第五巻を校正中です。書いてみて英語の力が足りないことをつくづく感じました。しかし内容としてもこの本はひどくむづかしいので、ここ百年間に世界の学者がやった研究は大したものだと思います。と共にこれを勉強するものにとってはその美しさに恍惚としています。同好の人をつのりたいも

のです。

## 木村 健二郎 (化学)

私は1956年に東大を退任しましたから、本年7月には退任後満20年となります。また、5月には満80歳になります。

家にこもっていることの多い近頃ですが、専門の学術雑誌に目を通すのと、俳句・連句をつくるのを日課とし、また楽しみとしています。5月にはこれまでにたまった俳句・連句・随筆からいくつかを選び、出版する予定です。

## 水島 三一郎 (化学)

昨年暮に頂いた東大広報(多分三〇四号)に「私はその人柄のうちにいくらか老人的なものをもっている青年をこのましく思う。同じような青年的なものをいくらかもっている老人をこのましく思う」という意味のことをどなたかが、かかれていました(失礼ながらお名前を忘れました)。この後の方の例として最近なくなったトインビーをあげることができるのではないのでしょうか。彼は専門史家からさまざまな批判をうけながら八十代の半まで青年研究者のように、たえず自分の考えを発展させ、多くの異なる分野で働くひとびとに、彼の説を傾聴させたからです。と書いたのでは御注文の寸言になりませんか?

## 多田 文男 (地理)

東京大学をやめてから、法政大学地理学科で教鞭をとって居りましたこと五年。その後駒沢大学に移って十一年、此間大学院で自然地理学を教えて居ります。近頃若い方々の研究が進んで、その研究成果を追跡するだけで、骨が折れます。

足の弱らないうちにと考えて昨夏は下北半島、尾瀬ヶ原、乗鞍岳等の踏査をして来ました。

## 和田 文吾 (植物)

近況：停年退職後は国際細胞学雑誌キトログリアの編集に専念しています(広報6巻8号参照)。

研究：卒論以来取り組んでいる有糸分裂の機構について、高等下等を問わず動植物細胞の核分裂は共

通な原理のもとに一元的な説明できることを今年のキトログリアに発表しました。

## 小林 貞一 (地質)

足が不如意で山歩きを断念した私は、平素は内外から集まった標本に秘められた自然史を読みとることに専念しているのですが、今月は例外でした。退官以来の共同研究会で両三日を費したほかは、日本の古生物と地学の歴史についての学会協会の仕事で明け暮れました。それにしても、50才で隠居して、暦学を修め、全国行脚17年、74才で永眠して、歿後3年にして門人の手で、彼の有名な伊能図が出来上ったという逸事は、昨今の私にとって感銘深いものがあります。

## 山内 恭彦 (物理)



山内 恭彦



山内 恭彦



[註：先生御自作の篆刻です。説明も御自筆。左下は御名前]

## 坪井 忠二 (地物)

昭和三八年に大学をやめてから、五年間国立国会図書館に勤め、四三年からは、語学教育振興会というところのがんばっています。文芸的ではなく、ざりとてチーチーパッパでない英語、つまりあたりまえのことをあたりまえに正しくいう英語の教育を目指しています。一年に数回、二週間程度のかんづめ合宿をやります。対象は大学生以上です。

学問の方は操業短縮でだいぶ気楽になりましたが、それでも「地球物理学特論」という大きなものをボツボツ書いてます。

茅 誠 司 (物理)

最近牡丹が好きになりました。まだ株数は少ないですが、一年にほんの僅かの期間美しい花を咲かす点が気に入りました。株数を二十株位にしたいと思って、植木屋さんにいくと牡丹ばかり探しています。

竹 協 潔 (動物)

六年前、思いもかけず川崎医科大学(現在倉敷市、当時は岡山県都窪郡庄村)の開設と同時に赴任し、その時の新入生が育って、この三月卒業するのと同時に、停年(三度目)退職することになりました。六年間、医学教育の実態を目のあたりに見、大学生にもピンからキリまでであることを感心しました。しかしその間、とにも角にも好き放題に実験をつづけることができたのは、学校のおかげと願って感謝しています。五十年来親しんだネズミとはもうお別れですが、人生到處動物がいるので、これからは度々田舎へでかけて、動物を見つめて暮らしたいと思います。それも決してきらいではありません。

弥 永 昌 吉 (数学)

学習院大学で火・木・土に行って講義、セミナーなど(教授会は月に2回火曜にあり、たいてい出ますが、それ以外の委員会などは勘弁してもらっています。)月曜はうちで手紙や原稿を書くのに宛てる事が多く、金曜は今でも本郷に行くことが多いです(学会関係の仕事などで)。そのほか、日仏会館の仕事も手伝っていますので、結構忙しく、約束しただけで書けない原稿などたまらばかりで心苦しく思っています。風邪をひいたり、ちょっとした病気にかかることはありますが、お蔭様でまずまず元気です。

渡 辺 武 男 (地質)

昭和6年地質学科を卒業して北大(13年) 東大(24年) 名大(3年) 秋田大(5年) で45年にわたる大学生活をつづけ間もなく任期を満了して退官するところです。その間多くの若人と共に遇して来たことを心から感謝して居ります。

また山野でハンマーを通して親しくなった世界の岩や石にも感謝したい気持です。

大学生生活の末期にあたり、大学問題についても色々と考えさせられる機会が多くありました。

地質学でみかげ石(granites)の成因がむづかしく、“granites and granites”と題して論ずるように、大学についても亦“Universities and universities”と題して考えるべき問題が多いように思います。何れにしても、大学はよく研究する先生と、よく学ぶ学生の集団であることが最高だと思います。

さて私は、今後、東京に本拠をもどして生活するつもりです。そしてハンマーと共になるべく山野へ出るつもりで居ります。どうぞよろしく。

小 穴 純 (物理)

8年前から四つ谷の上智大学の物理学科に勤めております。自分の頭が老化して理解力が低下したためでしょうか、講義などでその内容も学生に納得させるためにはどのような説明法を用いるべきかという事に興味を持つようになりました。“説明学”をまとめ上げたいというのは私の昔からの望みですが、とりあえず自分の講義原稿を毎年書き改めております。学術書もそうですが、とくに国産の機器類のカタログなどには、説明学の立場から落第点をつけたくなるものが多いようですね。

石 田 寿 老 (動物)

今年の一月中旬に高宮篤さんが亡くなった。東大から東邦大学に移ってから五年足らずである。私も同君から招かれて同大学で三年足らずを過し御一緒した。

亡くなる少し前に黄色の花の咲くクロッカス200個を球根で求めてあり、唯今芽が出はじめている。同君を偲ぶよすがとなっている。

藤 田 良 雄 (天文)

退職した年から東海大学に勤めるようになり、週2回神奈川県平塚市の湘南キャンパスに通っている。富士山がよく見える美しいキャンパスで広々とした敷地によく手入れされた芝生と美しい花壇が眼を楽しませてくれる。工学部理理学部の学部学生に一般教養科目としての宇宙科学を、又航空宇宙学科の大学院のゼミを一つ担当している。週の他の日は炭素星の分光の勉強が続けている。これについては東大理学

部の天文学教室、東京天文台（特に岡山天体物理観測所）、アメリカのヘール天文台にいろいろお世話になっている。又東大の中央図書館の一室を退職以来ずっと使わせていただいて居り、併せて感謝に耐えない。

#### 前 川 文 夫 （植物）

毎日元気でやっています。去年はソ連に一月、ニューギニアに三週間ほど行ってきて、勉強になりました。やはり旅行はプラスです。この春には台湾へでかける予定です。

#### 吉 田 耕 作 （数学）

拝復

近況をおたづね頂き有難う存じました。

学習院大学に週三日（火水金）勤務いたしております。鎌倉の自宅からバス、電車と乗り継いで目白まで一寸遠いですが、時には逗子に帰られる藤井隆先生に車中でお目にかかって、昔話に時間を忘れることがあります。

月に二度位は本郷の教室に伺って、若い方々に色々教えて頂いたり、図書を見せて頂いたりしております。永年の蓄積は大したもの、古いものも、新しいものも、この数学図書室の御蔭で不自由なく、OBの特権(?)を満喫させて頂いて感謝に堪えません。

#### 藤 井 隆 （動物）

毎年、理学部長のお招きで参集し、先輩の諸先生にお目にかかれるのが何よりの楽しみで御座います。小生おかげさまでどうやら健在というところです。

なお、理学部広報一月号所載の拙文「尊い人」はおかしな題で、原文の題は「雑感」でしたので、そのように訂正して下さい。理学部の皆様様の御健勝を祈ります。

#### 安 藤 鋭 郎 （生化）

広報編集に御尽力下さる御蔭で、私ども毎回なつかしく拝読いたしております。

本郷を停年後参りましたこの千葉大理学部も、あっと云うまにこの四月一日で再度停年と云うことに

なります。五年という年月は一つの研究室を準備し、動き始めさせるのに一杯で、もう五年これからあればひと仕事ができるのにも思われます。停年を重ねるごとに脱皮をして行くようで、人生の停年までに今度は家庭に入ってじっくり考えしのぶ生活と云う半面と、二度あったことは三度目の正直でもう一つ力一杯やってみようかと云う他半面とが、目下の頭の中で競い合いです。御機嫌よう。

#### 赤 松 秀 雄 （化学）

昨年四月、国立大学共同利用機関として分子科学研究所が岡崎市に設立され、それ以来その創設の勢に追われております。一通りの形が整うまでには、なお二、三年はかかるそうです。御後援下さるよう。

国際化学連合(IUPAC)の東京大会も、ウカウカするうちに、来年にせまりました。「人類福祉のための化学」をテーマとしています。御後援を乞う。

さらに先きのこと、長期計画としては「水素エネルギーシステム」の導入のための研究会をつくっております。御期待を乞う。

#### 原 寛 （植物）

東京大学インド植物調査に関連して、去年は6月まで英国に招かれてヒマラヤの植物の研究を続けました。7月にはレニングラードで開かれた第12回国際植物学会議に出席し、その研究旅行でシベリアのバイカル湖附近やサラン山脈東端の植物を見ることができました。まだしばらくはヒマラヤ植物関係の仕事が残っており、本年前半には、東大と大英植物館の協力でまとめられつつある「ネパール植物誌目録」の第一巻が出版される予定です。

#### 小 倉 安 之 （生化）内

去る1月24日病にたおれ、只今入院致して居りますので、折角で御座いますが、御希望に沿いません事、何卒御承知下さいませ。

草々

#### 田 中 信 徳 （植物）

現在も引き続き帝京大（医；八王子市）で植物を教

えている。校舎は野猿街道沿い、折がありましたら御立寄り下さい。自宅から38キロ、車で往復している。最近の信号のふえ方は年、約10%；昭和46年4月には104であったものが、今は152ヶ所にふえた。つれて所用時間も5割方ふえて1時間半はかかる。それでも国電で揉まれるよりはマシ、風邪につかまることも少ないのを多とする。

地球の生物圏の問題は人口と食糧で21世紀のことが気かりである。今、田中正武氏（京大・農・教授）著「栽培植物の起源」〔昭和50年12月刊行〕を読んでいるが、ジャガイモの発祥地、中央アンデスのアルティプラノ高原（海拔4,000メートル）の探索の話は特に興味深い。食糧と文化の変遷とのかかわり合いは、未来に多くの問題を提起していて面白い。祖先種の自生地に関する研究は広範なもので文明とからむと一層、学際的となる。食糧問題の危機は急速に近づいていることに注目したい。

去る2月15日、母が94才で召天した。不肖の子であった私は今、悲しみのうちに、いろいろの整理に追われている。

#### 木下治雄（動物）

停年退官以来、私立埼玉医科大学の進学課程を任されて四年間。この期間は、小生東大入学以来四十数年間のうちで、公私共に一番変化の激しい時期でした。色々な世評の中にある私立医大を少しずつでも正しい方へ向かわせるよう気永に努力し、協力をお願いかけて居りますが、屢々深い失望と無力感に襲われる事があります。そんな時のささやかななぐさめは、ほんの僅か乍ら研究の時間が持てる事と、愛すべき若い同僚や学生達が居るという事です。

#### 宮本梧楼（物理）

今春、名誉教授4年生修了見込。現職は日立市にある茨城大学工学部教授。電子工学科に所属している。因に、この大学の本部は水戸市内に、農学部は土浦市近郊にある。西の筑波山麓には学園や研究所がひしめき、東の海辺には原研、動燃などの大物が並ぶ。これらの村と町との間にはさまれた県下の三大市では、生来弱体の茨城大学が圧縮されて一層小さくなり今にもつぶされそう。つぶれないように乏しい個性を強調して、なんとか存在を示そうとするのが悩みである。倒産に傾く三所大学更生法のため

に現代版水戸黄門様の出現を祈る次第。

偕楽園では梅が待っている。

#### 鈴木尚（人類）

独自の空港をもちながら羽田から2日かかる日本一遠い島、それが喜界ヶ島です。昨年10月と今年の2月、この島を訪れました。これは僧俊寛と伝えられる遺跡と人骨を調べるためでした。この島は奄美大島の沖合25km。島に着陸すると20分で戻っています。一日一便は止むえないとして、鹿児島発の一番機だけにしか接続しません。ですから羽田から立つと奄美か鹿児島で一泊しなければなりません。2日かかる理由はここにあります。しかも有視界飛行ですから雨で視界が悪くなると飛行中止、切符はキャンセル。10月に行ったときは丁度、種子島でたしかに大水害のあった時に当りましたので、来る日も来る日も雨。宿の2階から沖をながめては、今日も飛行機は来ないのだろうかと気にしながら望京の念もだしがたく、今様俊寛をふんだんに味わえたことでした。

#### 岩生周一（地質）

この冬は偶然の用事で松本までの旅をしました。久々に車窓に見る八ヶ岳の冬景色はくっきりと澄んで美しく、変化に富んでいて、飽かず眺めては下手なスケッチを楽しみました。大陸の高原の広漠とした風景の好きな私にも、流石、山裾に隠れた人里を懐しむ様な旅情をそそる眺めでした。

唯、私の選んだ特急はこんな景色の中では余りにも機能的で速過ぎて残念でした。眺めの中には写真では見えないものがあるのにそれを奪ってしまうからです。

ふと、現代の物事の流れにも似たものを感じたのです。

#### 永田武（地物）内

12月10日より3月16日まで南極へ出向いて居りますので失礼します。

#### 門司正三（植物）

浪人生活もほぼ1年、晴耕雨読にはほど遠く、さ

ヨウ

今井 功 (物理)



小平 邦彦 (数学)